

高知県では「高知県男女共同参画社会づくり条例」の中で、毎年6月は「男女共同参画推進月間」と位置づけています。しかしながら、日本は世界から見るとまだまだ「男だから」「女だから」という思い込みにとらわれているのではないのでしょうか。

先日、世界153か国を対象に行われた男女平等の実現度の指標となる「男女格差報告」の2019年ランキングで、日本は121位でした。首位は11年連続でアイスランド。同国のエーリン・フリーゲンリング大使が3月8日の「国際女性デー」を前に共同通信のインタビューに応じ、日本の若い女性向け「夢を追い求めて。失敗は必ず次の糧となる」と呼び掛けていました。

エーリン氏によると、アイスランドも昔から平等が実現しているわけではなかったようです。転機となったのは1975年の大規模な全国ストライキでした。9割以上の女性が家事や仕事、育児の場から離れ、街の中心部で給与格差の是正や女性の人権について、「もう我慢できない」と訴えたのです。この全国ストライキにより国の機能がストップし、女性なしでは社会も家庭も成り立たないということや、有権者の半分を占める女性が現状に強い不満を抱いていることを、政治家は思い知ったのです。

男女共同参画の推進

さて、日本に目を向けてみると、女性だからと夢を諦めるのではなく、実現している方も多くいます。女性初のイージス艦長に就任した海上自衛隊1等海佐、大谷三穂さんは、女性のトップランナーとしてキャリアをひた走りながらも結婚、出産を経験しています。また、山手線の新駅「高輪ゲートウェイ」初代駅長、中村多香さんも女性です。中村さんは、「駅長になりたい」と公言してきた方で、「駅を育てていくのが楽しみ」と、首都の新たな玄関口を託された喜びを語っています。

南国市は、男女がお互いに社会の対等なパートナーとして認め合い、自分らしい生き方を尊重し、共に責任を担う社会を目指すために、小中学校に向く男女共同参画推進出前教室など、様々な取り組みを行っています。男女の思い込みにとらわれず、一人ひとりが自分らしく生きていくよう、今後も内容をより充実したものにしていきたいと考えています。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569